

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第8期宇治市生涯学習審議会 第11回審議会						
日 時	平成31年1月25日(金)午後3時～5時						
場 所	生涯学習センター 2階 第3ホール						
出席者	委 員	○	井上 浩	×	佐藤 翔	○	藤林 弘
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	向山 ひろ子
		×	奥西 隆三	○	杉本 厚夫	×	森川 知史
		○	木村 孝	○	長積 仁	○	六嶋 由美子
		×	切明 友子	○	西山 正一		
		○	小宮山 恭子	○	林 みその		
	事 務 局	○	伊賀 和彦(教育部部長)				
		○	藤原 千鶴(教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	市橋 公也(教育支援センター長)				
		○	福山 誠一(教育支援課長(兼)青少年指導センター所長)				
		○	宮本 義典(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹)				
		○	植村 和文(生涯学習課生涯スポーツ係長)				
		○	高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	上田 敦男(生涯学習課生涯学習係長)				
		○	森川 円(生涯学習課生涯学習係主任)				
	○	太田 悠(生涯学習課生涯学習係主任)					
	傍聴者	2名					

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第10回審議会の会議録について

修正部分を確認し、ホームページで公開する。→委員了承

1. 報告事項

➤ 平成30年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

(事務局)

1月18日(金)14時から16時半、木津川市加茂文化センターにて開催された。「人づくり・地域づくりと社会教育の役割～社会教育活動ってナニ?～」を研修主題に、3つの分科会に別れて課題提起があり、4～5人の小グループに分かれたラウンドテーブルでは、活発な意見交換が行われた。

(委員)

京田辺市による課題提起「成長する社会教育委員を目指して」がテーマの第2分科会に参加した。会社員であり、まだ社会教育委員として経験の浅い方の発表だった。事務局の

報告を聞くだけの会議に疑問を抱かれ、活動していくために何ができるかを考え、会議では毎回少人数で課題を話し合う時間を設けるなどの改革をされた。また、懇親会や研修会、先進地の視察を重ね、活発な活動につなげることに成功されているとのことであった。

ラウンドテーブルでは、同じグループのメンバーでお互いの現状を報告し合った。その中で、社会教育委員を拝命している限りは、自ら行動して手応えが欲しいと皆が思うようになってきているという話になった。

また、公募委員という考え方も大事ではないかと京田辺市の方は強調されていた。

(委員)

南山城村から来られていた方の話では、学校がなくなり集会所は縮小され、バスもなくなった。近隣の方しか集まれなくなった中で、地域づくりをしようと思うと、お迎えなどが必要となる。催しの場に人を集め、地域づくりをするためには、そのような配慮が必要な状況となっている。そんな中、町の協力のもとシャトルバスを出し、催しに「食べる」という要素をくっつけることで、人を集める工夫をしているとのことであった。

これから人口が減少し、経費的な問題が出ることで、時代を逆行していくのではと思ひ懸念したが、このような状況だからこそ我々のノウハウを活かして、人が集まる仕掛けや、地域の人を巻き込むような催しを実施していけたらよい。

(委員)

精華町による課題提起「精華中学校コミュニティスクールに見る地域と学校の協働活動について」がテーマの第3分科会に参加した。コミュニティスクールはシニアスクールだと言われていた。活動の中に学校の生徒を引き入れる、また、講師が生徒の中に入って一緒に物づくりをするなどしているとのことであった。

(委員)

うらやましい活動であると感じた。精華中学校は荒れた時期があり、そこに地域の方が支援しようということでコミュニティスクールが導入された。旧校舎にもともと空き教室があり、新校舎になってからは、コミュニティ教室が2部屋あるそうである。精華町のカレンダーに講座の予定を掲載し、全戸配布されているので、町民はそれを見て学校に集ってくる。その結果、子ども達も落ち着いてきて、良い学校になった。コミュニティスクールの事務局（コーディネーター）の人件費の捻出、また、学校には一切手間を取らせないよう調整することが難しいとのことであった。

(委員長)

色んな市町に視察に行ったり、外部の方に来ていただいております。お話を聞くことも、今後必要だろう。その時のテーマに沿った色んな情報を得て知的な刺激を受け、議論をより活発化することにつなげていきたい。

➤ 生涯学習関連事業調査について

(事務局)

本調査は、全庁的な取組状況を調査・報告し、市民の自主的・主体的な学習活動が還元される仕組み、社会還元を目指すものである。市民活動の支援、講座やイベント、人材養成、啓発・展示等、様々な手法で市民の学習活動を支援する取組を「生涯学習関連事業」として、調査の対象とし、昨年の5月に調査を実施した。現状と課題について、今年度は、約10件の事業で、終了や見直しを検討していると回答されており、限られた予算でより効果的な内容になるよう、事業内容を工夫されているところもある。本調査結果を受けて、他課の取組を参考にしたり、他課の事業と共同するなど、横のつながりを生み、より充実した取組を市民に提供し、社会還元につながるシステムづくりを進めることが今後の課題である。

➤ 平成30年度宇治市生涯学習人材バンク交流会について

(事務局)

平成30年度人材バンク交流会を、『ちょっと気になるとなりの活動～人との出会い、つながりから広がる活動～』と題し、平成30年11月28日(水)生涯学習センターにて開催した。

当日は、人材バンク登録講師14人、一般の方5人の計19人の参加があり、登録講師が、それぞれの活動内容や活動場所、広報手段等の情報交換を行うことで、各自の活動の幅の広がりについて具体的イメージを得ることを目的として、登録講師による活動発表タイムと、参加者による交流タイムを設けた。

2. 審議事項

➤ 公民館の今後のあり方について

(委員長)

前回出た意見に対して、修正等を行った。概ね今回で意見は出し切り、答申を固めたい。

(事務局)

資料「公民館の今後のあり方について(案)」に基づき、前回以降の変更点を説明。

7ページまでは修正なし。8ページに修正部分を赤字で記載している。

前回、「『宇治らしさ』が欲しい」「審議会が考えていることが分かるような内容を盛り込めないか」という意見をいただき、事務局案として入れさせていただいた。

委員長との事前の打ち合わせで、教育振興基本計画の基本理念や目指す人間像が、宇治市の計画の要であろうという考えのもと、このような表現とさせていただいた。

(委員長)

前回の審議会で、この答申の魂となる「宇治らしさ」はどこにあるのかという議論が出たので、「宇治らしさ」をどう反映させていけばよいかを検討した。その中で、「宇治らし

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

さ」は何に基づいているのかということ振り返り、教育振興基本計画の基本理念や目指す人間像が拠り所になると、改めて立ち戻ったところである。

また、「総合化」が我々の思いを乗せる新しい基軸となるのではないかと捉えている。この言葉に対して、審議会の中で思いを統一しておきたい。

(委員)

総合化とは、簡単に言うと、 $A+B=C$ になることである。今までの取組を並列とするのではなく、化学反応を起こすような連携の仕方を総合化と呼んでおり、まとめの部分にも「各々が専門性を活かしながら、新しい取組が生まれる」と記載されている通りである。

各部署が統合化、つまりそれぞれの取組を同じ場所でやりましょうというイベントミックスのようなものではなく、新しいイベントの企画やコーディネーターの養成などを進める組織ができてきたら良いという思いで、総合化が必要ではないかというところである。

ある程度歴史を積み重ねてきた組織は、形骸化してくることが多い。そこで総合化することで化学反応を起こして新しい試みが出るのが、市民に参画を呼び掛ける大きな起爆剤になる。このような思いから、ここで総合化と記載した方が、その意図が伝わりやすい。これが実現すれば、宇治市としても大きな目玉となるだろう。

(委員長)

公民館に関する議論を通して、市にある様々な資源をどうやって有効に活かしながら、 $A+B=C$ となる仕掛けができるのか、また、そのような仕組みを作っていきたいという思いが原点にあった。我々がこの審議会に対して抱いている「教育と文化が起こす化学反応で私たちのまちが変わる」という思いも込められている。

つまり、「総合化」には、この審議会を出した「宇治らしさ」「生涯学習審議会らしさ」という思いを乗せている。

今後は、委員がメッセンジャーとなり、審議会がどのような思いで公民館や今後の市の生涯学習を考えているのかということ、「総合化」という言葉に乗せて発信していくこととなる。

「総合化」の部分に関して、文章の加筆等はあるか？

(委員)

「各々が専門性を活かしながら、新しい取組が生まれる」という文章で、総合化という言葉がうまく生きてくるのではないかと思われる。加筆等はいらないだろう。

(委員長)

本答申には社会教育という言葉が出てこないが、我々は市民の代表として審議会でも議論しており、市民を主体として考えている。市民が受け身となる社会教育を前面に出すのではなく、生涯学習に社会教育も当然含んだ形としている。社会教育から生涯学習支援に移り、社会教育がなくなったのではなく、もっと大きな立場から市の教育や学習のことを考えていると思ってほしい。

その他ご意見がないようでしたら、2月6日に審議会を代表して答申を教育長に渡したい。万が一、誤字脱字などの修正等があればこちらで修正したい。

3. 協議事項

➤ 宇治市スポーツ推進計画の進行管理について

(事務局)

宇治市スポーツ推進計画の進行管理について、資料「宇治市スポーツ推進計画の進行管理について（平成29年度報告）」及び「宇治市スポーツ推進計画（概要版）」に沿って説明。

平成27年3月に策定された宇治市スポーツ推進計画において、基本理念を「スポーツが育むふるさと宇治の魅力と未来の実現」として掲げ、3つの戦略的方針に基づいて施策を方向づけている。本計画の進行管理については、生涯学習審議会において、戦略的方針に基づいて毎年度点検・評価し、施策の効果・成果・課題の検証を行い、計画の目標の達成を目指すとしている。

平成29年度の取り組みとして、主な実施事業の概要、決算の概要、3つの戦略的方針に基づいた施策の効果・成果・課題の検証については資料の通りである。平成30年度については、「する・ささえる・まなぶ・みる・つくる」という視点で人とスポーツとの多面的なかかわりや結びつきを強め、よりよいまちづくりを実現するための手段として活かせるように検討・調整をしていく。

(委員長)

資料にある、3つの戦略的方針と施策の体系の部分で、細かく体系分けを行った。そうすることで、スポーツをすることばかりを推進するのではなく、観るといふことの振興や、ボランティアの育成等ささえる施策を仕掛けることにもつながることを意識して捉えられた。実際、スポーツ推進員は指導するだけでなく、体験してもらったことを次は参加者自ら実現できるよう働きかけをしている。一つの事業からどのように市全体のスポーツ推進につながっているのかを意識して、報告書を作成してもらっている。新しいことを作り出す仕組みづくりはまだ薄いですが、例えば、宇治川マラソンが単なるランニングイベントではなく、これを通じてスポーツリズムの啓発等色んなことを仕掛けられないかと考えている。実際、今年度体育協会で講演を行ったが、どのようにすればスポーツとまちづくりを絡めることができるかについて、話をさせてもらった。

(事務局)

毎年、進行管理は事業報告を主に行っていたが、今回は推進計画の章立てにできる限り照らしながら進捗状況を報告させていただいた。また、決算額を入れたことで、スポーツ推進に使用されている予算規模も分かるようにした。

(委員)

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

4 ページの「スポーツ推進委員が指導」という文言があるが、ニュースポーツでは「指導する」という言葉は使わない。競技をする人が主体であるので、「支援する」「コーディネートする」等の言葉が適切だろう。

(事務局)

教室型よりも自由参加型の方が人気がある。指導するより、主体的に楽しむ方がニーズに合っているのだろう。

(委員)

他市で中学生のためのスポーツ事業を実施しているが、技術を高めて競技とする教室型ではなく、スポーツを通して交流する会にすると、参加者が増えた。新しいスポーツへの関わり方として、本来スポーツは交流のためにあるという視点で考えると良いのではないか。

また、5 ページの障害者スポーツ大会のところで、「スポーツを通じて身体機能の回復」と記載されているが、今はこのようなことは言わない。障害者スポーツは、今や一つのスポーツ文化として成立している。

(事務局)

今年度(第42回)も同じスローガンで実施されているものを、東京オリンピック・パラリンピックが近づいてきている中、障害福祉の視点のみを目的とすることは適切ではなく、別のスローガンに変更できないか、障害福祉課と相談を進めているところである。

(委員)

プロスポーツチームとの協働・連携に関して、プロ選手との交流や楽しさをどのように伝えるかが重要である。その点について、プロ選手は参加者誰もがスポーツを楽しめるようなプログラムを組むことに長けている。有名な選手の知名度で人を集めるのではなく、子ども達がプロ選手を通して交流を深めることができる、新しいスポーツ文化を模索するようなスタンスを持って取り組んでほしい。

また、7 ページの平成30年度の取り組みについての内容に関して、競技スポーツをいかに市民スポーツにしていくか、どのように市民生活にインパクトを与えるか、文化的レガシーをどれだけ我々が享受できるかという視点で取り組むことが、まちづくりの実現には必要となるだろう。市民ファーストのスポーツのあり方を見据えながら推進していただきたい。

(委員)

体育振興会の役員をやっているが、ソフトバレーやグラウンドゴルフ等続くニュースポーツを模索している。屋外実施のスポーツは低迷気味であるが、室内でできるボウリング大会は盛り上がっている。室内実施のスポーツは全天候型なので、お年寄りも楽しめるようなスポーツがあれば教えてほしい。

(委員長)

ニュースポーツは、ニューコンセプトスポーツであることを思うと、皆で新しいスポーツを考えることも良いだろう。参考として、世界ゆるスポーツ協会のホームページを一度見てほしい。大変面白く、「スポーツはこうでないといけない。」という概念にとらわれないことの参考になる。そのような概念を取り払い積み重ねることで、スポーツは文化であると実感できる。

(事務局)

宇治市女性の会連絡協議会では、砂袋投げを発展させ、砂袋ビンゴを編み出して楽しまれている。今の概念でいけば、素晴らしいスポーツと言える。

(委員)

京都サンガF. Cが出前授業をしており、今年度小学校に来てもらった。10年前もその頃勤めていた学校に来てもらったが、内容が大幅に変わっている。以前は、有名な選手が来られ、何回もリフティングする等派手なパフォーマンスで子ども達を惹き付けて盛り上げていたが、最近はコーチが来られ、サッカーの技術にあまりこだわらない形にされている。その授業の中では、お互いにどのような思いやりを持てば、皆が気持ち良くゲームが進められるかということ、ステップを踏みながら教えてくれる。スポーツは交流という前提で、一人の技術で進めるのではなく、皆が楽しく進められるルール作りまで子ども達にさせる。初めは物足りなさを感じていた6年生も、最後には、1年生をどのように巻き込んでプレイできるかというところに辿り着いた。

今はこのような形で、プロ選手に関わっていただいている。

(委員)

プロスポーツも、地域に根付くためのプログラムを作っている。

(委員)

以前、スポーツ推進委員をしていた。当時(10年前)の活動と、今の活動は変化している。ファミリーバドミントン等、教室の中で指導する形であったが、今は皆で楽しむものになっている。

(委員)

国体の新種目にeスポーツが入る。グラウンドで走れない人でも出場できる。スポーツとして国体の種目に入ることに疑問も感じる。しかし、我々のスタンスとして、一から学ばないといけないだろう。

(委員長)

オリンピックには、元々チェスも入っていた。スポーツというものを考える際に、身体

性に囚われていていいのかと問題提起されているとも言える。自発性、遊び、ルール、競争があり、そこに身体性があるものをスポーツとして語ってきたが、文化を生むチャンスを見逃していないかと問題提起されている。そこに、良いとか悪いという議論はあってよい。

(委員)

私自身は武道をしており、武道はスポーツではないと思っている。スポーツは「練習」と言うが、武道は「稽古」と言う。稽古とは、古きこと（先人が築いてきたこと）を考えることである。しかし、世界への普及のためには、スポーツとせざるを得ない。

(委員)

健康ボーリング教室に通っている。最初の6回は講師から投げ方を教えてもらったが、その後は自主的に仲間が集まりリーグ形式で続けている。一時は閑散としたボーリング場に、健康という付加価値を付けて昔やっていた人を呼び戻したと言える。また、そこは交流の場となっている。お互い連絡先は知らないが、そこにはつながりがある。子ども達だけでなくシニア層も元気になるような仕掛けが、もっとできていけば良い。

(委員)

本日、小学校で授業をしてきた。1年生から6年生まで、幅広い年齢を対象とする教室での授業は難しく、見て体験して楽しめるものとした。学年をまたいで教えるということはターゲットを絞りにくく、難しいことだと感じた。

(委員)

先日、テレビのニュースで、ある町では穴あき卓球を小さい頃からしており、各家庭にコンパクトな台があるほど、このスポーツが振興されているということを知った。このように、年齢層が幅広く、身近なスポーツがあればとても良いと思った。

(委員長)

穴あき卓球は大変盛り上がる。世界ゆるスポーツ協会で行っている「ブラックホール卓球」のことだろう。ゆるく楽しめるスポーツである。

(委員)

以前、宇治市のテニス教室に行き、学生時代から離れていたテニスで硬式を学び、その後テニスサークルに加わり、日常的に取り組めることになり大変喜んでいる。また、スケート教室に行き、バックを滑れるようにもなった。子ども達とスケートで接する機会があり、それを教えたら、すぐに上手に滑れるようになっていた。そのように講習会等でスキルを覚えてもらうことで、他の場でそれを広げていくことができる。そのような機会をまた期待したい。

(委員)

登りこども園で開催されている体操教室に通っている。そのような教室をやろうと思っている講師の方はたくさんいると思う。講師の方が活動できる場所がたくさんあれば良い。

(委員長)

色々な場所で色々な方がスポーツの振興に関わっている。情報共有やネットワーク化によって、そこからさらに新しいことが生み出されるよう、どのような仕掛けをしていけばよいか考え続けたい。

4. その他

➤ 平成31年度宇治市教育の重点「社会教育の重点」について

(事務局)

毎年、委員の皆さまには、社会教育の重点について内容をご確認いただいている。2月に入ったらお手元にお届けするので、今年もご協力いただきたい。

➤ 宇治まなびんぐ2019の出展について

(委員長)

まなびんぐは2月16日10時スタートである。9時25分の全体ミーティングに間に合うよう、9時20分に集合できる方はお願いしたい。

・ 最後に

(委員長職務代理)

本日まで、公民館の今後のあり方に関する答申について、皆さんにはたくさんご意見をいただき、ありがとうございました。

<次回の会議について>

後日、改めて日程調整。